

ミュージック・イン・スタイル 岩崎 淑シリーズ Vol.38

～ 木管五重奏とピアノのタベ～



岩崎 淑 (ピアノ)
Shuku Iwasaki, piano



橋本杏奈 (クラリネット)
Anna Hashimoto, clarinet



上野由恵 (フルート)
Yoshie Ueno, flute



岡崎耕治 (ファゴット)
Koji Okazaki, bassoon



吉永雅人 (ホルン)
Masato Yoshinaga, horn



蠣崎耕三 (オーボエ)
Kozo Kakizaki, oboe

SHUKU IWASAKI SERIES Vol. 38
Music in Style

2014 11.28 金 19:00開演
(18:30 開場)

浜離宮朝日ホール

中央区築地 5-3-2 Tel.03-5541-8710
(朝日新聞東京本社・新館 2 階 / 都営大江戸線・築地市場駅下車 A2 出口すぐ)

全席指定：一般 ¥5,000 学生 ¥3,000
※ 未就学児入場不可

プログラム

モーツァルト：ピアノと管楽のための五重奏曲 変ホ長調 KV452
W.A.Mozart Quintett in Es für Klavier, Oboe, Klarinette, Horn und Fagott KV452

サン＝サーンス：タランテラ op.6
C.Saint-Saëns Tarantella op.6 for Flute, Clarinet and Piano

野田暉行：コンソナンス～木管五重奏とピアノのための 1993
T.Noda Consonance for wind quintet and piano 1993

プーランク：六重奏曲
F.Poulenc Sextuor pour piano, flute, haubois, clarinette, bassoon et cor

* 都合により曲目・曲順が変更される場合がございます。何卒ご了承下さい。

◆ チケット取扱先 ◆

プロ アルテ ムジケ 03-3943-6677 www.proarte.co.jp
チケットぴあ 0570-02-9999 [Pコード: 235-839]
朝日ホール・チケットセンター 03-3267-9990

主催：ミュージック・イン・スタイル
協賛：(株)河合楽器製作所、(株)春秋社、スタインウェイ・ジャパン(株)
ピアノフォルティ(株)、ベヒシュタイン・ジャパン
(株)山石屋洋琴工房、(株)ヤマハミュージックリテイリング銀座店
後援：一般社団法人 全日本ピアノ指導者協会
桐朋学園音楽部門同窓会、公益財団法人 日本ピアノ教育連盟
日本・ロシア音楽家協会

マネジメント・お問合わせ

PRO ARTE
USICAE

プロ アルテ ムジケ 03-3943-6677

〒112-0013 東京都文京区音羽 1-20-14-5F <http://www.proarte.co.jp> info@proarte.co.jp

【岡山】11月26日(水) 19:00 ルネスホール お問合わせ：086-225-3003



私のミュージック・イン・スタイル シリーズコンサートは、ピアノを含む弦、管、声のさまざまな室内楽のプログラムと委嘱作品を1976年以来発表して参りました。第38回は、21年ぶりに管楽器に焦点をあてました。モーツァルト、プーランクの有名な作品とサン＝サーンス、そして1993年に委嘱した野田暉行氏の作品を再演いたします。丁度今年、音楽之友社の現代日本の音楽シリーズとして、三瀬和朗氏、別宮貞雄氏に続きミュージック・イン・スタイルの三人目として、野田氏のこの作品が出版されます。初演の共演者 長年N響で活躍されてきた岡崎耕治さん、現・読響首席の嶋崎耕三さんもこの作品の素晴らしさから今回の再演を喜んで下さっています。管楽器の室内楽曲としてより一層理解され、愛されることを祈っています。

橋本杏奈さんは21歳のときに初めてお聴きし、その才能にびっくりし、2011年国際音楽祭ヤング・ブラハに推薦させて頂きました。上野由恵さん、吉永雅人さんは初めての共演ですが、優れた演奏活動をされており、大変楽しみです。

心に染みわたる管楽器の音色を聴いて頂けたら、こんなに嬉しいことはございません。

岩崎 淑

岩崎 淑 [ピアノ] Shuku Iwasaki

倉敷市出身。桐朋学園大学、ハートフォード大学、ジュリアード音楽院、キジアーナ音楽院で、井口秋子、井口基成、J.ラタイナ、A.ベネデッティ・ミケランジェリ、S.ロレンツィ、I.フロインドリッヒの各氏に師事。1967年ミュンヘン国際音楽コンクール二重奏部門第3位。68年ブダペスト、70年チャイコフスキー国際音楽コンクールで最優秀伴奏者賞受賞。以来、J.シュタルケル、P.トルトゥリエ、P.-L.グラフ、I.バルマン、A.ナヴァラ、I.ギトリス、U.ウーギ、M.マイスキー、M.ジャンドロンなど著名音楽家と共演、録音多数。76年より「岩崎淑ミュージック・イン・スタイル」主宰。89年芸術祭賞を受賞。79年より18年間「沖縄ムービー・ミュージック・キャンプ&フェスティバル」、97年より「沖縄国際音楽祭」を弟の岩崎洸と企画開催。20年間に渡りシエナのキジアーナ音楽院でR.ブレンゴラ教授と室内楽クラスを担当。イタリアのグッピオ、ローヴェレ、フランスのクールシュペールなどでマスタークラスを担当。

上野 由恵 [フルート] Yoshie Ueno, flute



東京芸術大学音楽学部附属音楽高校を経て、同大学をアカンサス音楽賞を得て首席卒業。同大学大学院修士課程修了。第76回日本音楽コンクール第1位。岩谷眞(聴衆賞)、加藤寛、吉田貴、E・ナカミチ賞。第2回東京音楽コンクール第1位。第15回日本木管コンクール第1位。コスモス賞(聴衆賞)、兵庫県知事賞、朝日新聞社賞。第1回北京二重奏国際フルートコンクールセミファイナリスト。これまでに、読売日曜、都響、新日本フィル、東響、東京フィル、関西フィル、京響、セントラル愛知響、芸大フィル、瀬戸フィル、チェコ・フィル室内管、チェコ・フィル六重奏団等と共演。各地でのソロリサイタルのほか、皇室内桃華楽堂での御前演奏、首相官邸での演奏を行う。これまでにオクタヴィアレコードより3枚のCDをリリース。「レコード芸術」準特選盤、朝日新聞特選盤等に選ばれる。現在、ムラマツレッセンセンター、洗足学園音楽大学講師。

嶋崎 耕三 [オーボエ] Kozo Kakizaki, oboe



1983年京都市立芸術大学音楽学部を首席で卒業。在学中、第51回日本音楽コンクール入選。1984年DAADドイツ政府給費留学生としてミュンヘン音楽大学大学院へ留学。留学中、ベルリン放送交響楽団、ミュンヘン・パッサ管弦楽団、ヨーロッパ室内管弦楽団など数多くのオーケストラに客演。1987年帰国。第4回日本管打楽器コンクールオーボエ部門第1位入賞。札幌交響楽団、東京フィルハーモニー交響楽団を経て、現在読売日本交響楽団首席オーボエ奏者を務める。紀尾井シンフォニエッタ東京のメンバーとして、また独奏者、室内楽奏者としても活躍するかわら桐朋学園大学准教授として後進の指導にも当たっている。岩崎勇、ギンター・パッシンの各氏に師事。

橋本 杏奈 [クラリネット] Anna Hashimoto, clarinet



コルトレイク国際クラリネットコンクール(ベルギー)第1位、カルリーノ国際クラリネットコンクール(イタリア)最高位。日本では第3回ヤング・クラリネットリスト・コンクールにて優勝と同時に3つの副賞すべてを獲得。16歳でドハティエの新作コンチェルト「ブルックリン・ブリッジ」を初演。これまでに、ブリュッセルフィル、フラデーツクラウヴェフィル、英国の諸オーケストラ、日本の諸主要オーケストラ、ジョン・ミョンファン指揮のアジアフィルとコンチェルト協演。

英国、ヨーロッパ諸国、アメリカ、メキシコでのリサイタルや室内楽の他、エリザベス女王陛下主催によるバックingham宮殿に於けるレセプションにも招かれる。15歳でイギリス室内管弦楽団(ECO)とのコンチェルト・デビュー以来、同オーケストラとは度々共演を重ね、2回に渡り「ECOミュージック・クルーズ」にも招かれ、アンジュナージとも共演。

全額スカラシップを得て英国王立音楽院で研鑽を積み、数々の賞を獲得し首席で卒業。同音楽院のクラリネット科の助手を経て、現在バーミンガム音楽院の室内楽講師。又オーケストラ奏者としても、BBC響やCBSO等の客演首席を務める。

岡崎 耕治 [ファゴット] Koji Okazaki, bassoon



広島市出身。武蔵野音楽大学を経てDAADドイツ政府交換給費留学生として、デトモルト北西ドイツ音楽アカデミーに留学。1978年演奏家資格試験を最優秀で終了。1978年から2009年までNHK交響楽団首席ファゴット奏者を務める。現在は、武蔵野音楽大学教授、東京芸術大学客員教授、エリザベト音楽大学講師として後進の指導に当たると共に、ソリスト、室内楽で活躍。ドイツ、ハンガリー、ブルガリアに於いても度々のソロ、協奏曲、室内楽演奏会、マスタークラス等を開催。1973年第42回NHK毎日音楽コンクール第2位入賞。ナクソス、フンガルトン、マイスターミュージック、キングレコード等から多数の協奏曲、ソロ、室内楽のCDをリリース。

吉永 雅人 [ホルン] Masato Yoshinaga, horn



高校在学中の1985年、第1回日本管打楽器フェスティバル、ホルン部門、金賞及び特別賞受賞。同年、参加者最年少の17歳で、第2回日本管打楽器コンクール、ホルン部門第1位入賞。東京音楽大学付属高等学校を経て東京音楽大学卒業。94年より1年間、ドイツ、ミュンヘン市立リヒャルト・シュトラウス音楽院に留学。2001年には東京カザルスホールにてソロリサイタルを開催し好評を博した。ソリストとして小澤征爾、井上道義、小泉和裕、G・ボッセをはじめとする名匠らと協奏曲を共演する。東京ホルンクワレット、オイロス・アンサンブル、なぎさプラスソリスト等々のメンバーとしてCDをリリースするなど多方面で活躍する。現在、新日本フィルハーモニー交響楽団首席ホルン奏者、東京音楽大学、桐朋学園大学、桐朋学園芸術短期大学、各講師。

現在、演奏活動のほか、イタリア・カントゥ国際音楽コンクール審査員、第1回〜第3回高松国際ピアノコンクール審査員長。2008年まで桐朋学園大学院大学教授ほか、これまでに尚美学園大学大学院客員教授、武庫川女子大学、くらしき作陽大学客員教授を務めた。倉敷市文化振興財団アドバイザー。室内楽グループ「カローラ」主宰。国際音楽祭ヤング・ブラハ日本実行委員会会長。著書に「アンサンブルのよこび」「ピアニストの毎日の基礎練習帳」(以上春秋社)、「音楽さえあれば」(岩崎洸共著/吉備人出版)。

2005年福武文化賞、99年ノルウェー王国功労勲章叙勲。2014年1月第24回新日録注金音楽賞特別賞、同年2月第26回ミュージック・ベンクラブ音楽賞クラシック部門特別賞受賞。

Concert Reviews ~2013年11月 ミュージック・イン・スタイルVol.37より~

ゲストはイタリアを代表するバヤン&バンドネオン奏者ジュゼッペ・シアーノ。バヤンとはロシア式ボタン・アコーディオンで、イタリアで西洋音階の楽器として発達したらしい。アルベニスの小品3曲とセミョーノフ、モーリックの作品で聴衆を魅了。左ボタンも和声付に留まらずに旋律まで自在に担当する。その技と心は第一級だ。後半はこのシリーズの看板である委嘱作品の初演。今回は菅野由弘がバヤンとチェロのために書いた《星座》。構成感の明確な、耳に馴染む作品で、両楽器の表現の特質がみごとに生かされている。岩崎洸のチェロとのバランスもよかった。その後バヤン・ソロのシェイベル作品を経て、岩崎姉弟によるカサド《親愛なる言葉》。最後にバヤンをバンドネオンに持ち替えたシアーノがピアノとの共演でピアノ・プログラムを感情表現ゆたかに繰り広げた。大ヴェテランの岩崎淑がこうして現在進行形でレパートリーを広げていることにも目を瞠った。

(萩谷由喜子「音楽の友」2014年1月号)

1976年に始まった室内楽シリーズ「ミュージック・イン・スタイル」の第37回は、主宰者の岩崎淑(ピアノ)、岩崎洸(チェロ)、ジュゼッペ・シアーノ(バヤン&バンドネオン)というメンバーで開催された。シアーノは、バヤン(ロシア独特のクロマチック・アコーディオン)とバンドネオンの名手として、出身国のイタリアはもちろん、国際的にも高い評価を得ているという。

当夜は、はじめにシアーノのバヤン独奏で、アルベニス《コルドバ》《タンゴ》《アストゥリアス》と、セミョーノフ《ブラームジアーナ》が演奏された。指先の技巧が目目されるだけでなく、強弱のコントロール、曲想にそった風情の出し方、ニュアンスの表出など、聴き手の感覚に強烈に訴えるソロであり、バヤンから最大限の表現力が引き出されている。バヤンとピアノのデュオによる、モーリック《6つの性格的小品》と、ヴァルボラ《マリリナ・ソナタ》でも、シアーノの多彩な表現が光る。ピアノの岩崎は彼の音楽性に共感し、サポートに徹した。

後半に入って、菅野由弘《星座》(委嘱作品)は、ピアノ、バヤン、チェロという珍しい組み合わせでありながら、アンサンブルとしてよくまとまり、さらに、その表現の可能性を高度に追求した演奏。シェイベル《イントロダクションとアレグロ》(バヤン&チェロ)では、音色の組み合わせが新鮮かつ魅力的であり、かけ合いも楽しい。カサド《親愛なる言葉》(チェロ&ピアノ)では、岩崎洸の円熟した語り口が目玉された。最後に、シアーノが楽器をバンドネオンに持ち替え、ピアノとのデュオで、ピアノの作品から《グイオリテンタンゴ》など5曲。哀愁に満ちた表情、むせび泣くような表現など、シアーノの情緒豊かな節回しが、強く印象に残った。(原明美「ムジカノーヴァ」2014年2月号)

恒例ミュージック・イン・スタイルも37回目。今回は岩崎が弟の洸と共にイタリアのバヤン&バンドネオン奏者ジュゼッペ・シアーノと共演。

前半はアコーディオンに似る鍵盤の代わりに64のボタンで操作するロシアの楽器バヤンを使用。まずシアーノのソロでアルベニス。「コルドバ」、タンゴ、「アストゥリアス」の3曲が演奏されると次はセミョーノフ「ブラームジアーナ」。いずれも厚手で幅広い表現力を持つバヤンの特性を存分に活かした雄弁な演奏だった。次は岩崎のピアノと共にモーリック・六つの性格的小品とヴァルボラ/マリリナ・ソナタを。

後半はまずシアーノと岩崎姉弟の3人により菅野由弘への委嘱作品「星座」が作曲家臨席の下、演奏された。シェイベルもイントロダクションとアレグロ、カサドの「親愛なる言葉」を挟んで、以降はバンドネオンにチェンジ。最後の岩崎とのピアノ5曲もノリに合った岩崎のピアノが素敵に楽しかった。(浅岡弘和「音楽現代」2014年1月号)

日本随一のアンサンブル・ピアニストと知られ、演奏や教育、審査員やプロデューサーなど、国内外で幅広い活躍を続けている岩崎淑が1976年から始めた「ミュージック・イン・スタイル・シリーズ」コンサートの第37回。共演は、初めての共演楽器バヤン/バンドネオン/アコーディオンの世界的名手ジュゼッペ・シアーノと現代有数のチェリスト岩崎洸。

冒頭の、アルベニス《コルドバ》《タンゴ》《アストゥリアス》や、セミョーノフの《ブラームジアーナ》は、情感豊かなソリの良いバヤンのソロ演奏に魅了された。次のモーリックの《6つの性格的小品》とヴァルボラの《マリリナ・ソナタ》では、バヤンとピアノが絶妙な掛け合いを聴かせた。

後半は、菅野由弘への委嘱作品《「星座」ピアノ、バヤンとチェロのための(2013)》を初演。星夜に煌めく星々の光の動きを想わせて印象的であった。以降、カサドの《親愛なる言葉》はチェロとピアノ、シェイベルの《イントロダクションとアレグロ》はアコーディオンとチェロ、そしてピアノの《ジャンヌとポール》《アヴェ・マリア》《南へ帰ろう》《忘却》《グイオリテンタンゴ》をバンドネオンとピアノで演奏。岩崎淑の堅実で味わい深いピアノは、いつ聴いても安心感があり、新しい発見がある。この日もベテランならではの感興豊かな表現とアンサンブルの妙味を楽しみしめてくれた。

(横堀美月「月刊『ショパン』2014年1月号」)